

社会科 収集・分類から社会的事象をつかむための新聞活用

指定校 1 年次 軽井沢町立軽井沢中学校 佐藤 光重

(1) 本校の新聞活用 (NIE) の現状

本校生徒の新聞にかかわる実態としては、家庭での新聞購読率は約 7 割程度であり、新聞に毎日目を通して通している生徒は各学級 1・2 名程度であると考えられる。多くは、「たまにテレビ欄やスポーツ欄を見る」程度であり、新聞を通して何らかの情報を得るという体験を日常的にしている生徒は非常に少ない。そのため、「新聞の読み方が分からない」「記事のレイアウトが分かっていない」「漢字の読み書きが苦手」「少し難しい言葉に直面したとき自ら考えることができない」といった様々な課題を抱えている。

また、近年の一般的な傾向なのかもしれないが、家庭での新聞購読率よりもインターネット開通率の方がはるかに高く、自動的に表示されるフラッシュニュースなどから世の中の動きをつかむことが多いようである。そのような現状の中で生徒が新聞に触れ、記事を目にする機会は家庭よりもむしろ学校の方にあると考えられる。

(2) 実践のねらい (育てたい力)

本校生徒は、国際都市である軽井沢の特色として日常的に世界中の様々な地域から訪れる人々に関わる機会が多く、文化・人種・言語・宗教といった分野で国際的な視点を持つことができている。しかし、その一方で十分な知識や興味関心に欠ける部分もみられる。そのため、2016 年度 NIE 指定校にさせていただいたことを良い機会と捉え、まずは「新聞」という身近な情報から興味関心および様々な社会的事象への理解を深め、他者の意見を聞くことを通して、自己の思考・判断力を高めることをねらいとした。

(3) 研究の概要

①新聞の提供状況

学校内で生徒が新聞記事を見る場所として、生徒昇降口付近に新聞記事が貼りだされている。ここでは、本校が支援・交流を行っている岩手県大槌町に関連する記事や軽井沢町に関わる記事、また、本年度校舎改築が行われた本校に関する記事が展示されている。毎日、登校すると全生徒が通る場所であり、新聞に触れる最も身近な場所である。

また、気になったニュースを調べる際に「図書館の新聞コーナー」および「社会科研究室の資料コーナー」の 2 か所が提供されている。ここでは、生徒が新聞を手にとってみるができる場所として設置されており、信毎・朝日・産経・読売・日経など各社の新聞が置かれている。



【生徒昇降口掲示板】

【エントランス掲示版】



【図書館新聞コーナー】



②生徒の取り組み

新聞にかかわる本校での生徒の取り組みとして、本校社会科では以下の3点を軸に指導を行ってきた。

(a)ニュースレポート

長期休業中の課題として行っており、興味を持った新聞記事の中から1点選び、自身の感想や考えなどを書きこんだものを提出するといった課題を課している。これは、秋の文化祭で教室展示の一つとなり評価の対象にもなっている。

(b)時事問題

2016年度から定期テストの際に導入したものであり、社会のテストにおいて毎回5問程度(10点分)出題し、テスト前には現代社会の抱える問題などについて生徒間で話し合うきっかけとなっている。また、動機としては「テストに出題される」という観点ではあるが、自ら新聞記事を探す姿や家族との食卓の場で最近のニュースについて話す場面が増えたという効果があった。

(c)新聞作成

年間、1・2回程度ではあるが、「自然教室」「登山」「修学旅行」など各学年の行事前後の学習として新聞の作成を行っている。内容は、行事後のまとめ学習に関するものが多いが、ここではレイアウトやリード文、写真の配置や見出しの言葉選びなど新聞を作る人がどのような工夫や苦勞をしているのかを体験的に学習することを目的に行っている。

【社会科研究室新聞コーナー】



③研究授業

1. 単元名 「新聞記事から7地方区分の特色を考えよう」

2. 単元設定の理由

2年3組の生徒たちは、比較的社会的事象への興味・関心が高く、学習問題や学習課題に対して、前向きな姿勢で意欲的に取り組もうとする姿が多く見られる。反面、教科書の中の社会的事象を、遠い地域や過去の歴史、教科書の中での出来事として身近に捉えることができず、社会科に興味・関心を持ってない生徒の姿も見られる。

そのような生徒たちにとって、現在の社会で起きている様々な情報をリアルタイムで伝える新聞は、今、自分たちが生活している社会を映し出す鏡であり。教科書の内容と自分たちの日常生活と結びつけ、より身近に社会的事象を捉えながら社会科の学習を深めていくうえで、非常に有効な教材であると考えられる。

そこで、本単元では、日本地理の導入の場面で、どの地域で、どのような出来事が起きているのか、新聞記事を探して分類・整理する活動を通して、各地方の地域的特色を大きく捉えると同時に、社会的事象と日常生活との結びつきに気づき、社会的事象をより身近に捉えることができるようになることを願い、本単元を設定した。

3. 単元展開

学習問題	学習課題	学習活動	評価	時
日本には、どのような特色があるのだろうか	様々な視点から、日本を地域ごとに分けてみよう。	・日本の領土について確認し、47都道府県をもとにした7地方区分を知るとともに、他の様々な地域区分の方法について考える。	・領域を構成する3つの要素について理解している。 ・7地方区分が、どの都道府県によって構成されているか理解している。 ・さまざまな地方区分の根拠を、意欲的に考えている。	1
	新聞から、都道府県の出来事について書かれた記事を探し、7地方区分に整理しよう。	・6人ずつの班に分かれ7地方区分の担当者を決め、新聞4紙から都道府県に触れた記事を探す。	・記事の内容を読み込み、マーカーなどで線を引くなどの工夫をしている。 ・主体的に班の活動へ参加し、自分の担当する地方の記事を探している。	2
	探した記事を、「地方」「ジャンル」という2つの視点から整理して特色を見つけよう。	・各班の同じ地方担当者で集まり、持ち寄った記事を「自然」「災害」「人口」「産業」「交通」「文化・歴史」のジャンルごとに整理し、それぞれの地方との関連性を、特色という形でまとめる。	・複数の記事の共通性を見出し、記事同士を関連付けたり、既習の7地方区分と関連付けたりしながら、特色についてまとめている。 ・主体的にグループの話し合いへ参加し、模造紙へまとめている。	3
	2つの視点で整理して、みえてきた特色を説明しよう。	・地方ごとにみえてきた特色を互いに聞き、質疑応答しながら考えを深める。	・各グループの発表から、地方ごとの特色を見出すことができる。 ・各グループの発表をもとに、日本の特色について多角的に文章表現できる。	4
	みえてきたことをもとに、日本の特色についてまとめよう。	・単元のまとめをし、日本における地理的特色を、6つの視点と7つの地方区分を関連させながら全体でまとめる。	・日本の地理的特色について、地方ごとに特色があることを理解している。	5

4. 本時案

① 本時の主眼

新聞から、自分の担当した地方の記事をジャンルごと（自然、災害、人口、産業、交通、文化・歴史）に分類する場面で、7地方区分を学習した生徒たちが、各地方区分でどのような記事があったのかジャンルごとに分類し、整理してまとめる活動を通して、当該ジャンルと各地方区分との関連性について考えることができる。

② 本時の位置

全5時間中の第3時

③ 指導上の留意点

- ・特色を捉える7つのジャンル（視点）と7地方区分との関連性がわかりやすくまとめられるように掲示する。

段階	学習活動	予想される生徒の反応	教師の指導	時間
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容を振り返り、本時の学習問題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな記事を見つけた。 ・みんなはどんな記事を見つけたんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に担当する地方の記事を探せたか確認しておく。 	5
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習問題 新聞から日本の特色を見つけよう。 </div>				
展開1	<ul style="list-style-type: none"> ・地方別のグループに分かれ、探した新聞記事をジャンルに分類してまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ記事だ。 ・そんな記事があったんだ。 ・新聞によって書き方も違う。 ・この記事はどのジャンルになるんだろう？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動の手順を細かく説明する。 ・話し合いやまとめが上手く進まないグループには支援を行う。 	15
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習課題 どこでどんな出来事があったのかまとめてみよう。 </div>				
展開2	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループでまとめた内容をグループごとに発表し、全体で確認し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇（ジャンル）に関する記事が多い。 ・△△地方（地方区分）の記事が多い。 ・△△地方では〇〇に関する記事が多い。 ・記事が多い地方と少ない地方がある。 ・記事が多いジャンルと少ないジャンルがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンルと地方区分との関連性がわかりやすい表にしてまとめていく。 	20

まとめ	・本時の学習でわかったことをまとめ、確認する。	・△△地方では○○（ジャンル）に関する記事が多かった。		10
-----	-------------------------	-----------------------------	--	----



(4) 研究のまとめ

本年度 NIE 指定校にさせていただいたことで、学校全体として生徒が「新聞」という情報媒体に触れる機会が増え、生徒の思考の流れの中に社会の様々な情報を得るための手段としての新聞が位置づけられてきた。その結果、これまであまり手に取ることのなかった新聞に対する考えが少しずつ変化し、授業などの場面で扱うことができるようになってきた。本校生徒は「読む」→「理解する」→「考える」→「表現する」という学習の流れの中でも「表現する」については得意である生徒が多いため、研究授業でも活発な議論が交わされていた。普段の授業で使っている教科書や資料集などとは違った教材として新聞を活用することは、生徒にとっても非常に新鮮な体験であり、公民的分野に関わって「現代社会の中での私たち」というものを考えるきっかけになった。

(5) 残された課題

(a) 「読む」習慣

本校生徒は、新聞をとっていない家庭も多く、家庭での新聞を読む習慣がない生徒が多い。そのため、来年度以降は学校においてまずは「読む」時間を確保することが必要であると考えられる。朝の学活前の時間に本校では読書の時間を 10 分ほど設けているが、その時間を使って全員が新聞に向かう時間が作れると良い。

(b) 批判的に「読む」力

2016 年度の研究授業の際、新聞記事の収集・分類によって日本の諸地域の特色をつかもうと授業を構成したが、限られた期間の記事では一般的な情報が得られないことも多々あり、生徒に誤ったイメージを持たせかねないという問題点も見つかった。そのため、来年度は教科書や資料集も含め「情報を鵜呑みにしない」メディアリテラシーの観点も教科として大切にしなければならないと感じた。どの情報も完璧なものではなく、微妙な表現の差異や作り手の思いなどが記事に現れるので、そこから生徒一人一人が「何を」「どう」考えるかという点に大事に指導していく必要がある。

(c) 来年度の方向性

来年度、指定校 2 年目ということで、本年度の成果や課題を踏まえた上で学校全体として来年度どのような方向で授業をつくり、生徒の力を伸ばしていくかが課題である。